

ヴィンテージ 2020

異例の年に生まれた、偉大な伝統派

2020年11月9日、ブルゴーニュ/ Bourgogne



ヴィンテージ2020は、ブルゴーニュ/Bourgogneの関係者に言わせると、とても特異なヴィンテージだという。最初に、このヴィンテージは、すべての人にとり、かなり混沌とした状況の中でのものであったということ。

次に、発芽から収穫まで、歴史的な早熟であったこと。

最後に、結果として得られたワインは、多くの生産者にとり、絶対的に並はずれたもので、素晴らしく正統派のものだということである！

ロックダウン中の3月中旬、フランスは好天に恵まれた。これは9月中旬まで続いた。ぶどう樹はこの好天の恩恵を受け、発芽時から、3週間は早かった。この早さは収穫の時まで維持され、マコネ/ Mâconnaisでは、8月12日に収穫が始まった。

花穂の着生もとても早く、豊かな収穫量が期待された。夏の気温は上がり、同時に降水量が不足したので、水分不足を引き起こしたが、状況は区画により異なった。この水不足の状態が、凝縮を生み出し、それどころか太陽に向けた側のぶどうは、日焼けが起こった。このヴィンテージは、かつてないほどに、ブルゴーニュ/Bourgogneの多様性を映し出した。

アペラシオン/Appellations単位で、あるいは同じアペラシオン/Appellationsの中でさえ、開花の時期と同様に、そして恵みとなったにわか雨が降ったかどうかで、ぶどうの成熟には、ずれが見られた。このため、収穫日を決めるためには、冷静さと、まさに忍耐が必要であった。一方、ぶどうの衛生状態がとても満足のいくものであったので、醸造は容易に進んだ。雨が降らなかったため、病気はほとんどなかった。選果台では、日焼けしたぶどうを取り除くだけだった。

テイस्टィングを行った際、ヴィンテージ2020は、関係者を熱狂させた。このヴィンテージの特別な条件により、いまだかつてない、かなり独特のバランスが生まれたといえる。

そこはかたない豊かさがあると同時に、心地よい張りもある。

特に黒ぶどうはそうであった。白も、赤も、2020年は長期熟成向きの偉大なヴィンテージだと予想する人もいる。

この考えは、熟成後に確認できよう。

| 白ワイン

白ワインは果実味が豊かで、アロマの素晴らしい複雑さを表し、良い酸味がある。

夏が暑かったが、とても良いバランスを見せている。このバランスは、オーソドックスな爽やかさによりもたらされたもので、ブルゴーニュ/Bourgogneのヴィンテージへの期待に添うものである。

| 赤ワイン

赤ワインは、その信じられない「外見」で一線を画している！ その鮮やかな色は、アントシアンが豊富であることの印である。成熟期に日照と暑さに恵まれた理想的な条件であったので、ワインは凝縮し、個性があるが、重いことはない。白ワインと同様、爽やかさを保つことができ、ブラックベリー、ブルーベリー、ブラックチェリーなどの黒い果実の味わい深い風味を見せている。

| クレマン・ド・ブルゴーニュ/Crémant de Bourgogne

ベースワインは、強烈なアロマ豊かな表情を見せているが、太陽に恵まれたヴィンテージとまではいえない。ワインは豊かで、複雑で、味わい深い。驚くのは、豊かな酸のレベルと低いpHで、これらが完璧なバランスを生んでいる。

ピノ・ノワール/Pinot Noirは、味わい深い赤い果実のアロマがあり、チェリーやイチゴなどの表情が豊かで、爽やかさに支えられている。シャルドネ/Chardonnayも、とてもアロマ豊かで、際立つ酸味のために、良い張りを誇る。伝統的な柑橘類のアロマのほか、パイナップルのようなトロピカルフルーツのアロマも感じられる。

ガメイ/Gamayは、噛めるような酸味のある小さな赤い果実が際立ち、イチゴとグレープフルーツのアロマが結びついている。

アリゴテ/ Aligotéは、今年はよりたっぷりとしていて、味わいに程よいボリューム感があるが、良い酸味により爽やかさも維持している。



[ヴィンテージ2020のビデオはこちらをクリック](#)

presented
by Matthieu Mangenot

それぞれのワインそして生産者はただ一つしかないものです。それを特徴づけるためには、各キュヴェをテイastingすることが当然ながら必要です。

ヴィンテージ 2020の気候



« 思いがけない」、« 驚くべき » !

ブルゴーニュ/Bourgogneの生産者は、2020ヴィンテージを、この様に評している。

-このヴィンテージは注目すべきもので、一部の区画では、素晴らしく成功している。これは天候に起因する。春は理想的な条件の中で開花がすすみ、夏は暑かった。この気温に加え、乾燥していたが、バランスが良く、爽やかなヴィンテージとなった。

| シーズンの始まりはとても暖かく、春は夏のように

冬はとても暖かく、気温はこの季節の平均を超えていたので、発芽はぶどう畑全体で早く始まった。雨により、ぶどう樹は保水量を再び蓄えることができた。この早さは発芽の時に確認された。**発芽の中間点の日付**（50%が新芽が見える状態）は、**ヴィンテージ2020を、最も早くに生育が始まったヴィンテージの一つとした**。2019年に対しても、1週間早く、しかもどの品種でもそうであった。このためヴィンテージ2020は、最も早熟のヴィンテージのトップ3に入る。

4月にもこの現象が続き、気温は例年を平均で3.6℃上回った！ 5月中旬の「氷の聖人」と呼ばれる時期には、早朝に霜が降りたが、湿度が低かったので、大きな影響は幸運にもなかった。

5月14日から、気温は上昇した。例年を超える暑さは、5月23日まで続いた。これは、**一部の区画と品種について、開花を早く進めるのに好条件であった**。最初の開花はとても早くに見られ、生産者の不意を突いた。誘引もまだ終わっていない時期であった。

花穂の着生は見事であった。花穂はうまく形成され、数も多く、収穫量が多くなることが予想された。しかし、開花は一定の期間で終了した。最も生育が進んでいた畑では、果粒肥大の終了は6月23日ころであった。最も遅い区画では、7月の第一週であった。この時点ですでに、区画により、生育の進み具合に差が見られた。

| 水不足が際立った夏

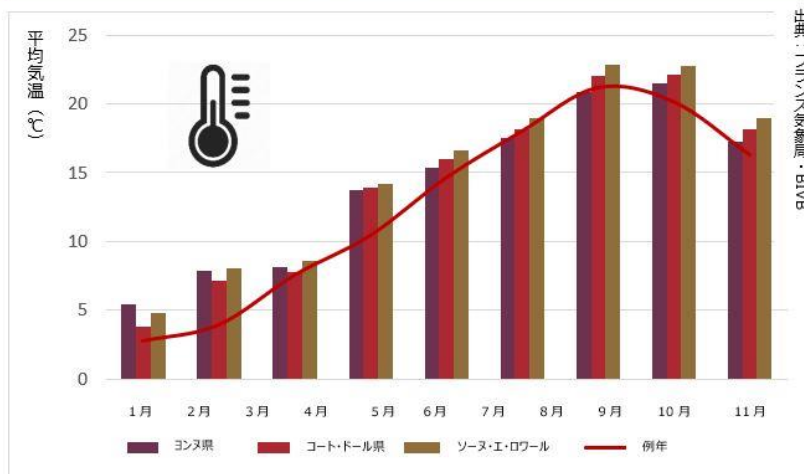
夏になっても、ぶどうの生育速度は、ほとんど落ちなかった。気温は高いままで、雨は少ない、あるいはとても少なく、区画により差があった。7月は、ブルゴーニュ/Bourgogne全体で、**雨は少なく、ばらつきがあった**。降水量は、例年の77%~87%不足していたが、気温は高かった（例年より+ 1℃）。8月には何回かの雷雨があったが、場所はとても限られていた。シャブリ/Chablis&グラン・オーセロワ/ Grand Auxerroisとマコネ/Mâconnaisは、主にこの恩恵を受けた。

このような条件のために、一部の区域や区画では、ヴェレゾンが減速したり、時には止まってしまうこともあった。このため、ぶどうの成熟の進み具合にはばらつきがあり、かつてないほどに、モザイク状のブルゴーニュ/Bourgogneのテロワール/terroirを表現する結果となった！

収穫時には、この多様性を考慮に入れなければならなかった。特にピノ・ノワールでは、とても早い区画もあったが、最適な熟度に達するために、より長い時間を必要とするところもあった。シャルドネは特にそうであった。

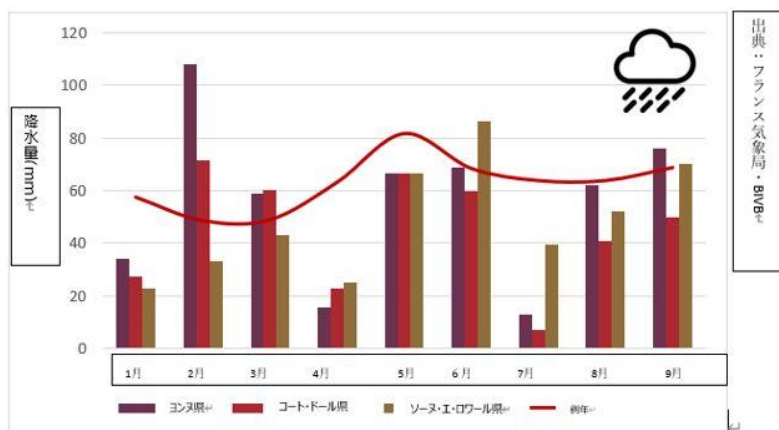
しかし、大半にとり、ブルゴーニュ/Bourgogne史上初めて、収穫が8月に始まり、終了したのである！最後の収穫は9月中旬を前にして、オート・コート/ Hautes Côtesで行われた。

月別の平均気温(°C) - 2020
県別 例年との比較



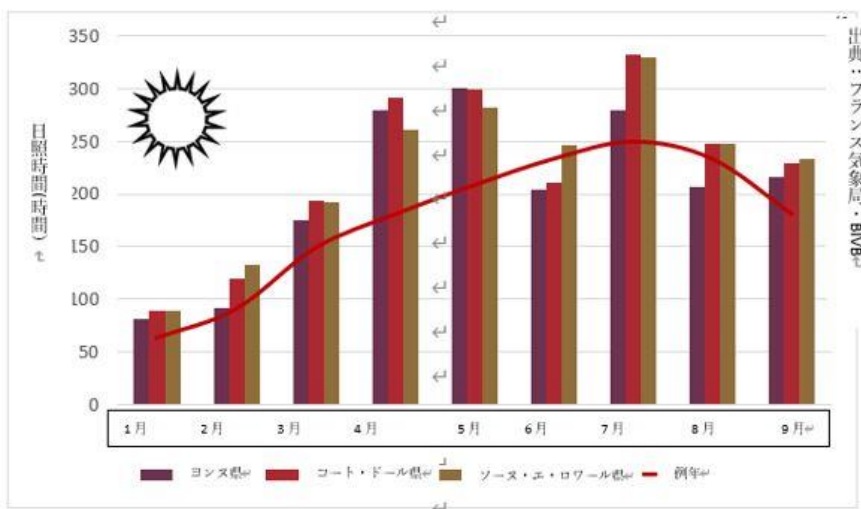
月別の平均降水量 (mm) -2020
県別 例年との比較

月別の平均降水量 (mm) -2020
県別 例年との比較



月別の平均日照時間 (h) -2020-

県別 例年との比較



本件に関する問い合わせ：PR担当 - SOPEXA JAPON 中谷
 Mail: pr_jp@sopexa.com または、Tel: 03-5789-0081まで
 ブルゴーニュワイン委員会 (BIVB) : Cécile Mathiaud - 広報部マネージャー
 cecile.mathiaud@bivb.com / www.bourgogne-wines.jp

BIVBのプレスリリースとロイヤルティーフリーの写真は
www.vins-bourgogne.frの
オンラインプレスルームにてご覧いただけます。

プレスへのお知らせの登録は[こちら](#)

フォローしてください：

